他科の先生に知って欲しい

豆知識・・・産婦人科編④

～卵巣に起因する婦人科急性腹症について～

川崎医科大学総合医療センター　産婦人科　本　郷　淳　司

卵巣は子宮と骨盤壁の間に、血管を含む靭帯でぶら下がった母指頭大の臓器です。完全な体腔内臓器であるため腫瘍ができても自覚症状に乏しく、卵巣癌は別名Silent killerと称され、腹膜播種や多量腹水を呈し、進行癌で見つかることがほとんどです。血清腫瘍マーカーでCA125高値、CEA正常ないし低値なら、まず卵巣や卵管などを疑い、直ちに婦人科腫瘍専門医までご紹介いただければと思います。

それ以外にも卵巣出血や卵巣茎捻転など、女性の急性腹症では比較的頻度の高い疾患があります。卵巣出血は排卵期が一番多いですが、卵胞期や黄体期いつでも起こり得ます。性交渉や外傷後に生じることが多く、S字状結腸のクッションに守られた左よりも右卵巣が多いとされます。推定出血量が500ml程度までで全身状態が落ち着いていれば保存的治療が原則ですが、抗凝固治療中や出血素因がある場合は要注意です。

その他にも様々な卵巣嚢腫が破裂した時にも急性腹症を呈します。漿液性嚢胞の破裂ではほとんど症状はありませんが、古い血液が貯まった子宮内膜症性嚢胞（チョコレート嚢胞）の破裂では、かなりの腹痛を伴います。胚細胞の良性腫瘍である卵巣奇形腫（皮様嚢腫）の破裂では内容の腹腔内漏出により化学性腹膜炎を生じ、激しい腹痛を伴います。早急な外科的処置が必要となります。

卵巣嚢腫茎捻転では腫大した卵巣腫瘍が捻転し、靭帯内の静脈が閉塞し、動脈血流入があるため卵巣腫瘍は更にうっ血腫大し虚血に陥ります。卵巣嚢腫茎捻転は放置すれば虚血壊死により卵巣機能が廃絶されるため、早急な診断治療が必要な疾患です。急激な下腹部痛を主訴としますが、捻転が進行し虚血壊死となると痛みが軽減するため注意が必要です。捻転の診断は単純CTではなかなか困難で、造影CT、MRI検査や超音波ドップラー検査で卵巣の血流を見る必要があります。一般的にも単純CT検査のみでは子宮や卵巣の軟部組織の診断は困難です。婦人科疾患を疑うときにはせめて造影CTかMRI検査を行うと速やかな診断につながります。少しでも婦人科疾患を疑えば、直ちに遠慮なくご紹介いただければと思います。